

いなべ市議会 行動計画

～ 議会の新たなステージへ ～

令和5年11月策定

いなべ市議会 行動計画（案）

1 趣旨

本計画は、いなべ市議会基本条例に掲げる「議会が議決機関として議決責任を強く認識すること」に立ち、市民に開かれた議会として、市民の福祉の増進及び公平かつ公正な市政の発展を図ることを目的として策定します。

令和4年12月に設置した議会検証評価特別委員会において、議会成熟度評価モデルを指標として、さまざまな視点から議会活動を内部評価してきました。

本計画において、議会に期待される役割（ミッション）と議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）を掲げ、議会基本条例に掲げる理念を基に、着実に実行することとします。

2 計画の期間

令和5年12月1日～令和9年11月30日

3 議会に期待される役割（ミッション）

いなべ市議会は、二元代表制における議決機関です。ゆえに、議案審議及び事務の執行を監視し評価することが大きな役割です。

全ての議会及び議員活動が議決に帰するため、以下4項目の役割を明記します。

(1) 執行機関を監視・評価

二元代表制において、執行機関の役割と議会の役割を認識し、監視と評価によって議決責任を果たします。

(2) 市民意見・要求・要望の把握

市民の福祉の増進につなげるため、積極的に市民と意見交換の場を設けて市民及び地域の実状を把握することに努め、市民ニーズを施策及び事業に反映するよう執行機関へ提言する役割を担っています。

(3) 政策提案・提言

市民及び地域の実状と事務の執行に鑑み、政策提案及び提言を行います。

(4) 市民への説明責任

議決機関として、議決に至った経過と結果を説明する責任があります。審議過程で、どれだけ市民の声を代弁し、討議し、及び審議したかが重要です。

4 議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）

議会に期待される役割（ミッション）を踏まえ、いなべ市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）は以下のとおりとし、今期議会議員任期満了となる令和7年には、このビジョンに近づき、議会基本条例制定10年を迎える令和9年にはビジョン到達を目標に取り組みます。

いなべ市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）は、「市民に期待され信頼される議会」とし、以下の3項目を明記します。

(1)市民の声を反映する議会

市民の意見を聴く機会を増やすことにより、施策及び事業の監視、評価の視点とするなど議会活動に反映します。

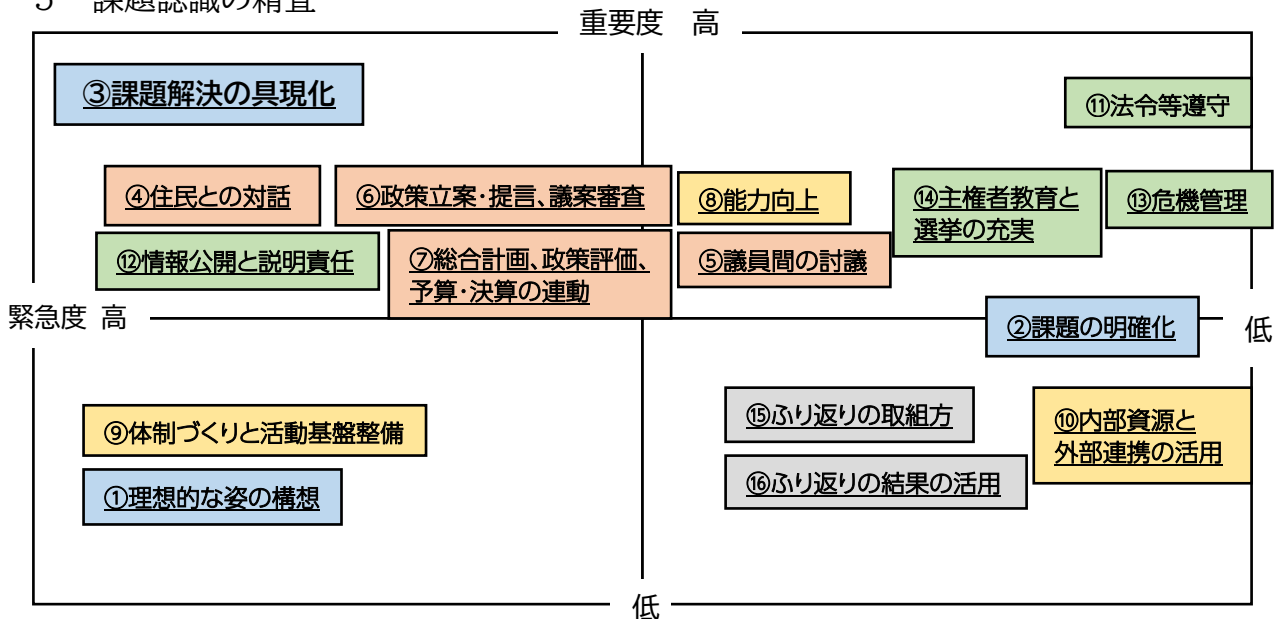
(2)合意形成ができる議会

議員間討議を積極的に行い、合意形成を図り、議会の意思を示す場面を増やします。

(3)政策提案及び提言を実現できる議会

社会の変容に即した提案及び提言を行います。

5 課題認識の精査



①理想的な姿の構想 ・議会基本条例、議会プロフィールを議会全体で認識する機会を持つ。	⑨体制づくりと活動基盤整備 ・議会の広聴・広報を担う委員会を整備。 ・情報共有を図る体制を整備。
②課題の明確化 ・議会基本条例を認識し、検証する機会を持つ。	⑩内部資源と外部連携の活用 ・タブレット活用の見直し、さらなる活用に向け協議。 ・外部連携のルールづくり。
③課題解決の具現化 ・議会で議論を尽くして「行動計画」を作成。	⑪法令等遵守 ・活動原則を基に体制を整える。 ・コンプライアンス研修の実施。
④住民との対話 ・市民に議会を知ってもらう「場」の設定。 ・「市民の声を反映する議会」を念頭に、住民との対話・反映のしくみづくり。	⑫情報公開と説明責任 ・議案審議のながれを体系立てて構築。 ・議会報告会の充実。
⑤議員間の討議 ・議員間討議を実施するための体制・しくみづくり。	⑬危機管理 ・議会 BCP を学ぶ機会を設ける。 ・議会 BCP が機能するか検証。 ・執行部と議会の情報共有を強化。
⑥政策立案・提言、議案審査 ・市民との対話などによって「議会ならではの」視点を持つ。 ・調査研究で得た意見を反映。	⑭主権者教育と選挙の充実 ・主権者教育の実施。 ・児童生徒への議会体験の場づくり。 ・選挙管理委員会への働きかけ。
⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動 ・議決事件の拡大について議論を開始。 ・政策サイクルの構築。	⑮ふり返りの取組方 ・政策サイクルに反映させるしくみづくり。 ・一般質問で取り上げたテーマを委員会で検証。
⑧能力向上 ・能力向上のため、弱みを知る。 ・必要な研修を企画。	⑯ふり返りの結果の活用 ・政策サイクルに反映させるしくみづくり。 ・一般質問で取り上げたテーマを委員会で検証。

6 取組内容

(1)課題解決の具現化（課題認識の精査③）

- ◆議会で議論を尽くして「いなべ市議会行動計画」を作成します。
- ◆議会検証評価特別委員会の調査報告を尊重し、議会の課題解決に取り組みます。

(2)市民との対話（課題認識の精査④）

- ◆市民に議会を知ってもらう「場」を設けます。

★「場」の定義

意見交換・懇談会、議会報告会、SNS、議会だより、ホームページなど

(2)-1 広聴広報委員会の設置（令和5年12月運用開始）

市民との対話、議会の情報発信及び情報収集を機能させるため、広聴広報委員会を設置します。

(2)-2 意見交換会の実施（令和6年1月運用開始）

市民（グループ、団体、関係機関など）から、意見交換会の開催申込みが随時できるようにします。

(2)-3 議会報告会（令和6年1月運用開始）

対面による議会報告会は年2回（4月、10月）

動画配信による議会報告会は年2回（7月、1月）

(3)情報公開と説明責任（課題認識の精査⑤）

- ◆議会中継及び録画配信、いなべFM、議会だより、SNS、議会ホームページなどで情報発信を行います。
- ◆議案審議の流れを体系立てて構築します。
- ◆議会報告を充実します。

(3)-1 議案審議の過程の見直し（令和6年第1回定例会運用開始）

告示・議会運営委員会	
議案書配付	
①議案勉強会（全体（任意））	各議案の着眼点と議案審議に必要な情報収集の確認。
提案理由の説明	
②議案に対する市民意見の聴取	市民生活に大きく影響がある議案について、市議会ホームページから市民の意見を聴く機会をつくる。
委員会付託	
③論点整理（各委員会・分科会）	各議案の着眼点を確認。 募集した市民の意見を確認。
委員会・分科会	
討論・議決	積極的に討論に参加し、市民が「なぜ、賛成なのか、反対なのか」がわかるように取り組む。

(3)-2 議会報告の充実

審議した内容、議決に至った経緯を議会として説明します。

(4)政策立案・提言、議案審議（課題認識の精査⑥）

- ◆委員会による所管事務調査、事業評価を通して政策提言を積極的に行います。
- ◆慎重に議案を審議するため、議会内で十分に協議します。
- ◆市民との対話によって「議会ならではの」の視点を持ちます。
- ◆調査研究で得た意見を、議案審議、政策提言及び立案に反映します。

(4)-1 「議会ならではの」の視点（本計画策定後）

議案を実施することによるリスク、市民不安の払しょくなど、調査研究や着眼点の整理などによって「議会ならではの」の視点を発揮します。

(4)-2 政策立案に向けた調査・研究（本計画策定後）

所管事務調査だけで政策立案に向けて活動するのは、時間及び人員に限界があるため、特別委員会を活用し、政策立案に向けた調査・研究を行います。

（例）所管事務調査の結果、条例による手立てが必要な場合、特別委員会を設置し、政策立案に向け活動。

(5)総合計画、政策評価、予算・決算の連動（課題認識の精査⑦）

- ◆総合計画に基づく施策を基点とした予算案及び決算審議を充実します。
- ◆総合計画基本構想の慎重な審議と各種計画の確認を強化します。
- ◆政策サイクルを構築します。

(5)-1 総合計画基本構想の慎重審議と各計画の確認強化（次期総合計画基本構想及び令和6年1月以降に策定される各計画）

総合計画基本構想の審議に当たっては、市総合計画特別委員会を設置し、十分な説明を受け、論点、着眼点を整理し、慎重審議へつなげます。また、市の施策の根幹をなす各種計画の策定に当たっては、議会へ十分な説明が行われるようにします。

なお、地方自治法第96条第2項に基づく議決事件の拡大については、引き続き議会運営委員会を中心に協議します。

(5)-2 政策サイクルの確立（本計画策定後、随時）

いなべ市議会では、総合計画、予算・決算を軸に政策サイクルを確立します。

政策サイクルの中では、議会に期待される役割（ミッション）に掲げた①執行機関を監視・評価、②市民意見、要求、要望の把握、③政策提案・提言、④市民への説明責任を効率的及び効果的に取り組みます。

また、議員任期4年において、議会の役割（ミッション）と実現すべき姿（ビジョン）を明確にし、市民に信頼される議会を目指します。

いなべ市議会の政策サイクル（年周期）

月	議会活動	市民参加
12月	①12月定例会	議案に対する意見公募
	②定例会ふり返り	
1月	12月定例会報告（インターネット）	議決内容と議決に至った経緯の説明
2月	①議会だより2月号発行（クイズ有）	議会活動の報告、意見募集
	②決算審議における議会提言の回答を受け、各委員会で協議	
	③3月定例会における一般質問準備	市民生活の実態調査・確認、政策議論（一般質問）へ反映
	④3月定例会開会	議案に対する意見公募
3月	①議会だより2月号で得た意見の共有	
	②3月定例会	
	③所管事務調査事項の決定、公表	市民へ周知
4月	①定例会ふり返り	
	②3月定例会報告会、意見交換会（対面）	議決内容と議決に至った経緯の説明 所管事務調査事項に対する市民意見
	③所管事務調査計画の作成、公表	
5月	①議会だより5月号発行	議会活動の報告、意見募集
	②所管事務調査	
	③評価対象事業の候補選定（会派）	
6月	①6月定例会	議案に対する意見公募
	②評価対象事業の決定、公表（分科会・委員会）	市民へ周知
	③定例会ふり返り	
7月	①6月定例会報告会（インターネット）	議決内容と議決に至った経緯の説明
	②所管事務調査（行政視察・管内調査など）	意見の収集
	③事業評価（ヒアリング・現地調査など）	意見の収集
8月	①議会だより8月号発行（クイズ有）	議会活動の報告、意見募集
	②事業評価（ヒアリング・現地調査、評価シート作成など）	意見の収集
	③所管事務調査（行政視察・管内調査など）	意見の収集
9月	①議会だより8月号で得た意見の共有	
	②9月定例会	議案に対する意見公募
	③事業評価提言、公表	市民へ周知
	④定例会ふり返り	
10月	①9月定例会報告会、意見交換会（対面）	議決内容と議決に至った経緯の説明 所管事務調査事項に対する市民意見
	②所管事務調査まとめ、提言	
	③議会活動検証評価	
11月	①議会だより11月号発行	議会活動の報告、意見募集
	②議会活動検証評価答申、公表	市民へ周知
	③議会費予算要求	

反映

意見を
フィードバック

意見を
フィードバック

(6)体制づくりと活動基盤整備（課題認識の精査⑨）

- ◆議会を構成する各委員会、会派等の体制を効果的に運営します。
- ◆議会の広聴及び広報を担う委員会を整備します。
- ◆議員間で情報共有を図る体制を整備します。

(6)-1 広聴広報委員会の設置 ※(2)-1と同じ

市民との対話、議会の情報発信及び情報収集を機能させるため、広聴広報委員会を設置します。

(6)-2 全員懇談会の活用（R6.1月運用開始）

毎定例会閉会后、全員懇談会を開催し、議案審議及び一般質問において、議会機能を十分に果たせたかをふり返し、次期定例会へつなげます。

また、各会派で調査した事項について、議会で共有すべきものは共有します。

(7)理想的な姿の構想（課題認識の精査⑩）

- ◆議会基本条例、議会プロフィールなどを議会全体で認識する機会を持ちます。議員任期4年を1周期とし、議会検証評価特別委員会を設置し議会活動を検証します。

政策サイクル（4年周期）

任期1年目	任期開始当初	前期議会からの引継ぎ 議会のミッションとビジョンの確認
	10・11月	議会活動のふり返し（有識者、市民意見反映）、次年活動へ反映するよう議長へ報告、議会費予算へ反映



任期2年目	10・11月	議会活動のふり返し（有識者、市民意見反映）、次年活動へ反映するよう議長へ報告、議会費予算へ反映
-------	--------	---



任期3年目	10・11月	議会活動のふり返し（有識者、市民意見反映）、次年活動へ反映するよう議長へ報告、議会費予算へ反映
-------	--------	---



任期4年目	9・10月	任期中活動のふり返し 次期議会への申し送り
-------	-------	--------------------------

(7)-1 議会モニター制度の設置（R6.4月運用開始）

議会の活動が市民に伝わるものになっているか、一般公募により10人程度のモニターを募集し、議会に対し意見をいただきます。

(7)-2 有識者による議会活動の評価（R6.7月運用開始）

議会基本条例及び議会に期待される役割（ミッション）と議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）に基づく議会活動の検証及び議会機能の向上を図るため、学識者をアドバイザーとして委嘱します。

(8)能力向上（課題認識の精査⑧）

- ◆議会機能及び議員の質向上のため、現状把握（弱み、課題）を認識する機会を持ちます。
- ◆現状を打開するために必要な研修を企画します。

(8)-1 議会及び議員活動の検証 ※(7)と同じ

政策サイクル（4年周期）において、議会及び議員活動を検証、（公財）日本生産性本部が発行する地方議会成熟度モデル、早稲田大学マニフェスト研究所が実施する議会改革度調査を活用し、現状把握（弱み、課題）を認識します。

(8)-2 計画的な議員研修の実施（本計画策定後、随時）

議会及び議員の弱み及び課題を克服するため、毎年、議会検証評価特別委員会において計画し研修を実施します。

(9)議員間の討議（課題認識の精査⑤）

- ◆議員間討議を積極的かつ円滑に実施するためのしくみをつくります。
討議に必要な質を高めるため、議員研修を実施します。また、現行の議員間討議の実施に関する申合せを、あらためて全議員へ周知します。
まず、令和6年2月に対話型研修を実施します。

(10)主権者教育と選挙の充実（課題認識の精査⑭）

- ◆主権者教育に取り組みます。
- ◆児童・生徒が議会へ参加する機会（体験を含む）をつくります。
- ◆選挙管理委員会へ、主権者教育及び投票率向上について働きかけます。

(10)-1 主権者教育（R6.4月）

平成29年3月に告示された小学校及び中学校学習指導要領において、主権者として必要な資質・能力を育む教育について明記されています。

児童生徒に身近な自治体である「いなべ市」と「いなべ市議会」を教材として、民主政治と政治参加、市民の生活と市の役割など、さまざまな視点で学ぶ機会にさせていただくように働きかけます。

(10)-2 児童・生徒が議会へ参加する機会（体験を含む）（R6.4月）

学校（クラス単位）を対象に、議会を体験するイベントを企画し、市内小中学校へ活用の働きかけを行います。また、長期休業（夏・冬・春休み）を活用し、誰でも参加できる親子議会体験ツアーを行います。

(10)-3 選挙管理委員会への働きかけ（R6.4月）

選挙は、市民が政治に参加し、主権者としてその意思を政治に反映させることのできる最も重要かつ基本的な機会です。

いなべ市選挙管理委員会においてもさまざまな取組を実施しているところですが、その取組の成果は、なかなか数字（投票率）に現れていません。このことを踏まえ、今後、選挙管理委員会と懇談し、取組の役割を明確にしていきたいと思います。

(11)法令等遵守（課題認識の精査①）

- ◆議会基本条例に掲げる議会の活動原則及び議員の活動原則を念頭に取り組みます。
- ◆政治倫理規程を、議員個々が理解する機会をつくります。
- (11)-1 議会の活動原則及び議員の活動原則を定期的に確認します ※(7)と同じ
議会活動を検証する際に、議員が議会の活動原則及び議員の活動原則に立ち返る機会を持ちます。
- (11)-2 コンプライアンス研修を実施します。
議員任期1年目にコンプライアンス研修を実施するとともに、継続的に政治倫理規程の遵守を徹底します。

(12)危機管理（課題認識の精査③）

- ◆議会業務継続計画（以下「議会BCP」という。）を議会で定期的に共有します。
- ◆機能する議会BCPになっているか検証します。
- ◆非常時における執行機関と議会の情報共有及び伝達のしくみを強化します。
- (12)-1 議会BCPの共有
議会BCPを定期的に議会全体で共有します。
- (12)-2 議会BCPの検証
議会BCP「9 訓練及び研修」に規定するように、訓練及び研修を通して本計画が機能しているか検証します。
- (12)-3 執行機関と議会の情報共有
地震、風水害及び感染症に限らず、事件及び事故等による市の非常時に関して市災害対策本部又は担当部署と速やかに情報共有が図れるしくみをつくります。

(13)課題の明確化（課題認識の精査②）

- ◆議会基本条例を認識し、検証する機会を持ちます。
(7)理想的な姿の構想で掲げた政策サイクル（4年周期）の中で、議会基本条例の理解を深め、議会の共通認識とします。

(14)ふり返りの取組方（課題認識の精査⑤）

ふり返りの結果の活用（課題認識の精査⑥）

- ◆ふり返りによって得た反省点を政策サイクルに反映します。
- ◆一般質問で取り上げたテーマを委員会で検証します。
- (14)-1 政策サイクルへの反映（R6.1月運用開始）
毎定例会閉会後にふり返りを実施すること、及び全員懇談会で出た意見を、政策サイクルに反映する必要があるか否かも含め、所定の委員会において十分な協議を行います。

(14)-2 一般質問で取り上げたテーマ（個人の問題提起）の検証（R5.12月運用開始）

一般質問終了後の委員会において、所管する事項を確認し、必要に応じて委員会を中心とした議会のテーマとして取り上げます。

(15)内部資源と外部連携の活用（課題認識の精査⑩）

◆タブレット端末のさらなる活用に向け、現行を見直します。

◆外部連携の体制整備を行います。

(15)-1 現行タブレット端末の機器更新（R5.11月協議開始）

タブレット端末を導入して5年が経過します。機器更新の協議を行います。

(15)-2 タブレット端末のさらなる活用

いなべ市議会ICT基本方針の中で定める活用方法として、オンライン審議の体制が確立していない状況です。オンライン審議が機能するよう、条件整備、体制整備に向け協議を開始します。

また、タブレット端末が議員によって使用度に差が生じている現状に鑑み、誰もが基本的な操作が可能となるよう、研修を実施します。

(15)-3 外部連携の活用

議会が専門的知見を必要とする機会に迅速に対応できるよう、近接する大学、学識者などと連携する体制を整備します。

参考1 いなべ市議会プロフィール

議会プロフィール		いなべ市		議会	
<p>本シートは、議会が実現したい理想的な姿（ビジョン）と、それを実現するための方策を整理するために使用します。議会に求められる役割（ミッション）を踏まえて、実現すべき理想的な姿（ビジョン）に近づくために、活動目標（アクション）を明確化しましょう。</p>					
【基本データ】					
任期 令和3年12月1日～令和7年11月30日	定数 18人	議員数 17人	投票率 55.41% (R3.11.14執行市議会議員選挙)	議員報酬 (一名・月額) 390,000円	政務活動費 (一名・月額) 30,000円
事務局職員数 7人	議会費 (年間) 2億2,160万5,000円	予算規模 239億7,000万円(令和5年度当初予算)	請願・陳情数 請願 件、陳情 件(令和4年実績)	政策連携など 特になし	議長任期 2年
自治体職員数 324人	合併履歴 平成15年12月1日いなべ市制施行(員弁郡大安町、藤原町、員弁町、北勢町合併)		総合計画の位置づけと対象期間 いなべ市総合計画条例 平成28年度～令和7年度(第1期:平成28年度～令和2年度、第2期:令和3年度～令和7年度)		
1. 議会に期待される役割(ミッション) 地域経営(まちづくり)において、私たち議会に期待されている役割(ミッション)は、下記の通りです。 いなべ市議会は、二元代表制における議決機関である。ゆえに、議案審議及び事務の執行を監視し評価することが大きな役割である。 全ての議会及び議員活動が議決に帰するため、以下4項目の役割を明記する。 (1)執行機関を監視・評価 二元代表制において、執行機関の役割と議会の役割を認識し、監視と評価によって議決責任を果たす。 (2)市民意見・要求・要望の把握 市民の福祉の増進につなげるため、積極的に市民と意見交換の場を設けて市民及び地域の実状を把握することに努め、市民ニーズを施策及び事業に反映する役割を担っている。 (3)政策提案・提言 市民及び地域の実状と事務の執行を鑑み、政策提案及び提言を行う。 (4)市民への説明責任 議決機関として、議決に至った経過と結果を説明する責任がある。審議過程で、どれだけ市民の声を代弁し、討議し、審議したかが重要である。			2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン) 私たちが実現すべき議会の理想的な姿(ビジョン)は、下記の通りです。 議会に期待される役割(ミッション)を踏まえ、いなべ市議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)は以下のとおりとし、今期議会議員任期満了となる令和7年には、このビジョンに近づき、議会基本条例制定10年を迎える令和9年にはビジョン到達を目標に取り組み。 いなべ市議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)は、「市民に期待・信頼される議会」とし、以下の3項目を明記する。 (1)市民の声を反映する議会 市民の意見を聴く機会を増やすことにより、施策及び事業の監視、評価の視点とするなど議会活動に反映。 (2)合意形成ができる議会 議員間討議を積極的にを行い、合意形成を図り、議会の意思を示す場面を増やす。 (3)政策提案及び提言を実現できる議会 社会の変容に即した提案及び提言を図り、市政に反映。		
自治基本条例等の制定・改廃または検討の状況 いなべ市議会基本条例(平成29年4月1日施行)※改正等の経歴なし			議会基本条例等の制定・改廃または検討の状況 いなべ市議会基本条例(平成29年4月1日施行)※改正等の経歴なし		
3. 現在の姿 私たちの議会がこれまでに作りあげた「仕組み」や「制度」、「取組み」や「運用」の工夫は、下記の通りです。					
(1) 民意の吸収や政策ニーズの情報収集 ・参考人招致、陳情、公聴会、調査機関の設置、事務事業評価、公文書等資料請求 →議論を深化させるように取り組んでいる。 ・議会だよりへの意見、感想 →意見、感想を、ハガキだけでなくインターネットでもできるようにしている。 ・意見箱 →市民の目につきやすい所に設置している。 ・議会報告会 →参加いただいた市民から多く意見をいただけるように、会場の雰囲気、議員の対応(聴く姿勢)などの工夫をしている。		(対応条文) 3条-(3) 5条-(2) 9条 10条 26条-3		(2) 地域や住民ニーズの変化 ★高齢化により医療・介護を必要とする人が増える。 ★高速道路の開通によって、人流が増える ★一人暮らしの高齢者の増加、空き家や耕作放棄地の増加 ★生産年齢人口の減少 ★市民団体による活動の活発化 ★過疎化した自治会の崩壊のおそれ ★IT・DX化で住民サービスが拡大 ★自動運転の実用化！	
(2) 行政執行の監視や政策の評価・検証 ・議案説明資料の充実 →事務事業別予算・決算説明資料、条例改正の新旧対照表などが提出されている。 ・委員会制度の充実 →予算決算常任委員会設置による機能強化(事務事業評価)、所管事務調査、委員任期の複数年化により年度をまたぎ連動して審査している。		(対応条文) 3条-(4) 11条 17条 23条 26条		現在 想定される時期 2 0 4 0	
(3) 議会独自の視点での政策の調査・立案 ・所管事務調査、事務事業評価 →少しずつ政策サイクルが確立されつつある。 →議会で合意形成を図り、提言につなげている。 →立案に取り組み始めている。		(対応条文) 3条-(4) 6条-(2) 11条 12条 22条 23条		5. これから取り組むべき課題 理想的な姿(ビジョン)を実現する上での課題は、下記の通りです。 ③議会の到達点(ビジョン)の共通認識。 →議会の行動計画の作成。 ⑫市民に議会の動きが十分に伝わっていない。 →市民に議会を知ってもらう「場」の設定。 ④⑫市民の声を「議会」として聞く機会が少なく、反映させる体制がない。 →市民との対話、市民意見の反映のしくみづくり。 →議会報告会の充実。 ⑥政策立案や議案審査に調査研究活動が積極的に活用されていない。 →調査研究で得た意見及び情報を反映し、政策立案や議案審査に活用。 ⑦市総合計画の位置づけが、議会として明確ではない。 →議会における市総合計画の位置づけ。 その他、議員の能力向上、討議の充実、主権者教育など	
(4) 力を入れて取り組んでいること ・情報発信(議会だより、SNS、インターネット中継・録画配信、FM、ホームページ) →多様な手段で議会活動を広報している。 ・ICT化 →議会の情報共有が進んでいる。 ・議会プロフィールの作成、成熟度評価モデルによるふり返り →議会の課題、ビジョンを議会全体で確認している。		(対応条文) 3条-(1) 7条 8条 10条 24条 35条		6. 通任期(4年間)の活動目標・アクション 具体的に取り組む活動目標・アクションは、下記の通りです。 別冊「いなべ市議会行動計画」とおり	

参考2 成熟度評価モデルを用いた議会活動の評価（内部評価）

参考2 成熟度評価モデルを用いた議会活動の評価（内部評価）

（凡例）◎：継続的に成果を生んでいる ○：取り組んでいる △：模索している ー：いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点1. 戦略プラン	①理想的な姿の構想	◎	議会の理想的な姿が明確化され、議会全体に浸透するとともに、社会の変化に応じ議会の理想的な姿を追求し続ける仕組みがある。
		○	議会の理想的な姿が明文化されているが、議会全体への理解が浸透していない。
		△	議会の理想的な姿を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例で理想的な姿は明示されている。 ・議会全体で考え、全体に浸透させる仕組みが確立されていない。 ・議会全体で、このようなグループワークをすることが今まではなかった。（講師を呼ぶだけ） ・「滅私奉公」の精神を全議員が持っている <p>★理想的な姿を共有していくのがスタートライン</p>

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、成熟度評価に取り組んでいる／初めてミッション、ビジョンを立てているので、今はない ・基本条例はあるが、見直しが無い ・まだまだ浸透していない ・明確さが無い <p>★今回のワークによって、議会基本条例に理念・役割を定めているが議員に定着していない、理解・認識に差があることがわかった。→理解、認識を共有するための場が必要。</p>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例に明文化されている事を、全ての議員に理解浸透するための研修が仕組みとして作られている。 ・検証評価を行い継続的に見直す仕組みがある。 ・検証評価特別委員会もあるが、全体として意識が浸透しているとは思えないので再考の余地があるものの、各委員会ですっかりとした仕組みがあり、全議員で共有して取り組んでいることから評価を◎とした。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例に明記されている。また、現在取り組む成熟度評価モデルにおいて、「理想の姿」を掲げている。 ・議会基本条例に明記されているものの、議員個々の認識及び理解度に差がある。
	<p>具体的な改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会検証評価特別委員会は、委員を選抜して条例の見直しを行っているものであり、議会全体で取り組んでいるとは言えなかった。よって、議会全体で、条例に明記された理念を検証する必要がある。 ・今後は、議会基本条例及び議会プロフィールを議会全体で共有する機会を持つ。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点1. 戦略プラン	②課題の明確化	◎	様々な観点の分析を踏まえ、議会として取り組むべき政策や改革の課題を明確化する仕組みがあり、継続的に見直しも行われている。
		○	取り組む政策や改革の課題は明確化しているが、分析の観点が限られている。
		△	政策や改革の課題は明確化されておらず、その方策を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> 分析をすることができていない 議員が個別に情報収集しているが、その後、話し合う場がない 議員個々の考え方は異なるが、市民のために公僕として働いている ★議会として市民の声をきくシステムがしっかり機能していない(仕組みが必要) 多くの議員に理解されるようになってきた 「地域の議員を立てる」という思いがある。議会として課題解決のために動けるならありがたい。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> 議会全体での取り組みはない 認識が低い 議会基本条例を制定してから、毎年、課題の整理は行っており、具体的に、課題は明確化されている。 全体で取り組む意識が低い ★個人の認識に差がある。⇒認識を共有するための場が必要。

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> 所管事務調査、事務事業評価に対して執行部から反応が良い点や、全体として情報を共有している点、時には事務事業評価によって予算反映までしている点で加点とした。 議会として取り組むべき課題の明確化を進めているが、プロセスや仕組みを構築している最中である。 継続性が充分でなく、手応えはあるものの散発的である。 理想的な取組みを始めたばかりである。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> 議会の理想を実現するために、これまで議会検証評価特別委員会で毎年検証し取り組んできた。その中で課題も明確化し、課題を解決するためにステップアップしてきた経緯がある。 議会として市民の声をきくシステムがしっかり機能していないから個人の認識に差がある。 議会として取り組むべき課題を明確化するため、仕組みを構築している最中であるが、課題の認識に関して、議員個々の温度差がある。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> 議会基本条例を基に話し合う機会が必要。⇒認識を共有し、検証するための場が必要。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点1. 戦略プラン	③課題解決の 具現化	◎	理想的な姿を実現するために、明確な目標を設定し、計画的、体系的な取組を行っている。
		○	様々な取組は行っているが、それぞれが断片的なものになっている。
		△	理想的な姿を実現するために、具体的な方策に落とし込む方法が定まっておらず、そのやり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・「理想的な姿」の実現に向けて、いなべ市議会は議会基本条例を制定する前から動き出している。ただ、残念ながら、<u>まだこの動きが全議員の共通認識となっていないのが現状であり、「チーム議会」として一丸となった動きになっていない。</u> ➡<u>目標達成のため、具体的な行動計画が必要である。</u>

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会として具体的な行動はない。 ・<u>全体で課題解決に至っていないが、現在、取り組んでいることによって認識は示されている。</u>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標を設定して計画的に体系的な取組を行う仕組みはあるという点で加点とした。 ・明文化されているが、具体的な段階に入ると、その理想が議員個人の価値観の違いを生むこともあり、コンセンサスが得られていない点もある。 ・議会基本条例の解釈も個人で違うため、それでは二元代表制の役割をキチンと果たせない。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標を設定し、計画的に体系的な取組を行う仕組みはある。 ・明文化されているが、具体的な段階に入ると、その理想が議員個人の見解の違いを生むこともあり、「チーム議会」として一丸となった動きになっていない。
	<p style="text-align: center;">具体的な改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のため、具体的な行動計画が必要。目標を設定するにあたっては、議会で議論を尽くすことが重要である。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点2. 政策サイ クル	④住民との対 話	◎	住民との対話によって得られた情報が、議会活動に反映される仕組みがあり、議会全体で効果的に活用している。
		○	住民との対話を通じた情報収集に取り組んでいるが、議会全体ではまだ活用されていない。
		△	住民との対話は十分でなく、そのあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【A グループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声をきく体制は整えたが、コロナでダメになった。 ・住民の声を議会活動に反映させる「議会のしくみ」はない。 ・いなべ市議会の過去の実績、経過を新議員につたえなければならない。

【B グループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・議会全体では不十分 ・本格的にできていない。 ・対話のしくみがない ・動画配信、SNS を行うなど努力しているが、議会からの一方通行であり、オンライン上で「対話」はできていない。

【C グループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の議会活動で、1 番の弱みで 1 番の課題である。 ・コロナ禍であった理由もあるが、議会報告会や公聴会などができていない ・広報編集委員会が公聴を始めるというところで止まっている点、先進議会では月に一度報告会を開催している中、いなべ市議会では、そこまでの展開にはなっていない。 ・意見交換会をしていない点もあるが、それを取り入れる仕組みがない。また、そのような意見を聞いたとしても、それを議会として市民に回答する仕組みがない。 ・所管事務調査では、参考人招致などで意見を聞く機会があり、共有が一部できた点もあり、進歩である。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
△	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査では、参考人招致などで意見を聞く機会があり、共有が一部できた点もあり、進歩である。 ・議会報告会が年1回にとどまっている。 ・議会として、住民との対話は十分にできておらず、住民の声を議会活動に反映させる「しくみ」がない。
	<p style="text-align: center;">具体的な改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、市民に議会を知ってもらう場を設けることから始める。 ・「市民の声を反映する議会」を念頭に、住民との対話(意見交換)の仕組みを作る必要がある。また、対話を企画する場を設ける。 ・対話によって得られた情報及び意見を反映させる仕組みを整備する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点2. 政策サイ クル	⑤議員間の討 議	◎	議員間討議が日常的に行われ、機関意思の形成を意識した合意形成が実現している。
		○	議員間で議論を行っているが、必ずしも合意形成が実現されているわけではない。
		△	議員間の議論のあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【A グループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・議員間討議に挑戦している ・ただ、まだ背景に賛成、反対が見え隠れするので、議員間の対話にまでなっていない。 ・自ら議員間討議の声もまだ少ない ・<u>議員間討議の本来の姿を模索中</u>

【B グループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での討議がなされていない。 ・取り組み始めている ・<u>議員間討議は、取り組み始めて活発になってきているが、議案に対しては不足している。</u>

【C グループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査で議員間討議をする機会も非常に多くあったが、委員会などで前もって「議員の勉強」が足りていない点もあり、エビデンスのある討議ができていない ・審査に入る前に委員会で集まり、重要な論点になるところが何処かを協議し、事前に議員間討議の論点を明確化するなどの工夫がない。 ・いなべ市議会として、これから重点的にしていかなければならないポイントである。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
△	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査、議会検証では、議員間討議が活発に行われてきたが、議案審査においては、不足している。 ・事前に議案に対する勉強・調査が足りていない点もあり、深く討議ができていない。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・議決に至るまでに十分な審議を尽くすため、議案に対する議員間討議は必須である。 <p>【議員間討議を活発にするための一例】</p> <p>議案審査にあたっては、議案書配布後、勉強会を開く。(参加自由)</p> <p>↓</p> <p>提案理由の説明を受けた後、勉強会で出された着眼点(論点)を整理する。(全員懇談会)</p> <p>↓</p> <p>委員会前に、会派内で論点を整理しておく。</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会で議員間討議を実施。(委員会)

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点2. 政策サイクル	◎政策立案・ 提言、議案審 査	◎	調査研究の結果を活用し、チーム議会としての議会独自の視点に基づく政策立案や議案審査を行っている。
		○	調査研究活動を行っているが、チーム議会としての議会独自の視点に基づく政策立案や議案審査を行うという意識は一部の議員の間にとどまっている。
		△	チーム議会としての調査研究活動を通じた政策立案や議案審査のあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の充実化、政策提言 ・「チーム議会」とまではいっていないが、委員会としては行っている。 ・<u>議案審査がまだ十分ではない。</u>

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・議論がなされていない。 ・議案審査の時間が足りない。 ・<u>議案審査に対して発言が足りない。資料も含めて議員が準備不足。</u>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・消去法として△ではない。理由としては、模索している段階ではなく、委員会で提言も出せし、意見書もまとめられたなど成果を出しつつある。しかし、政策立案や議案審査に調査活動が積極的に活用されている現状ではない。 ・政策立案に関しては、現在、いなべ市議会としては、委員会の所管事務調査に基づいて進んでいくのが自然形である。よって、会派から委員会に政策立案があり、その内容を委員会で執行部にやらせた方がよい案件か、あるいは、議会発議でする内容かを検討するなどの具体的な提案があった。 ・委員会に関しても、今回の議案審査に関して「どこを論点」としてやっていくかなど話し合いがあるべき。 ・採決になったときに、会派思考が働くため、会派の存在意義のあり方も含め、会派の合意形成を図った上でどうやって審議したのかという「プロセスを公表されたし」という意見も出た。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム議会」とまではいっていないが、委員会では、提言、意見書などの成果を出しつつある。 ・政策立案や議案審査に調査研究活動が積極的に活用されている現状ではない。 ・議案審査は、審議が尽くされているとは言い難い。 ・「議会ならではの」視点が活かされていない。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民との対話などによって、「議会ならではの」視点を持つことで、論点を明確にする。 ・調査研究で得た意見及び情報を積極的に反映し、政策立案や議案審査に活用する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点2. 政策サイクル	⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動	◎	決算時に総合計画の体系を踏まえて議会として独自の政策評価を行い、その結果を次の予算審議時にも反映させている。
		○	総合計画の体系を踏まえた議会として独自の政策評価を行っているが、決算や予算とはまだ十分に紐づいてはいない。
		△	総合計画を頂点とした政策体系との整合性、政策の目的・成果に連動する決算・予算審議のあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・決算審査の結果を意識している。 ・事務事業評価を行っている。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の理解が追いつかない ・<u>総合計画の位置づけが、議会として明確じゃない(議決事件にしていない)</u> ・全体の連動として認識できていない ・予算・決算審議に総合計画を落とし込んでいない ・取り組めている

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・評価できる点としては、事務事業評価がきちんと機能している。今回の都市教民分科会が行った事業評価では、一応予算は確保されたが、自分たちがあげた提言に関しては、「検討します」で終わっている。この後の追求が必要である。 ・事務事業評価の回答に対する追求を強化すべき点である。 ・民間委託が多くなってきたため、地方自治法上、民間事業になってしまうと、なかなか議会として突っ込むことができない。けれど、市の事業であるためもう少し議会として精査できる仕組みが必要だ。 ・政策体系を意識できているとは思えない。 ・現在、いなべ市議会は「基本構想」で予算が通るため、本当は「実施計画」までであることが望ましい。 ・決算の事務事業評価はしているが、予算審査に反映せられているとは言いがたい。もっと、予算審査に反映させることが今後の課題である。 ・先日の勉強会で「総合計画から紐づける」という視点や、もっと議員としてのレベルを上げていくという意見で皆が納得。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の体系を踏まえた事業評価を実施している。 ・議会として、総合計画を基にした事業の位置づけが予算・決算審査に反映しているとは言いがたい。 ・総合計画の位置づけが、議会として明確ではない。(議決事件に規定していない)
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画(基本構想、基本計画、実施計画)を、地方自治法第96条第2項に基づく議決事件として追加するか否かの議論をする場を設ける。 ・予算・決算を連動させるため、政策サイクルを今一度見直し、調査活動計画を立てる。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点3. 条件整備	⑧能力向上	◎	理想的な姿の実現に向けて計画的・体系的な能力向上に議会・議会事務局全体で継続的に取り組み、政策提言や議員提案条例の立案等の成果が出ている。
		○	能力向上の必要性を認識しているが、その取り組みは議会や議会事務局の一部にとどまり、また、計画的なものではない。
		△	どのような能力を向上させることが必要かを模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【A グループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある人だけが、研修に参加している。 ・<u>議会事務局と目標設定ができていない。</u> ・<u>しくみづくりまではできていない。</u>

【B グループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップに努めている。／ステップアップできるといい。 ・知見を磨けているか疑問。 ・計画的、体系的になっていない。／全体的な計画ができていない。／議会全体の浸透がまだできていない。 ・<u>能力向上の重要性を認識し、能力伸長を図っていく。</u>

【C グループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・不足しているスキルや能力を獲得していこうとする意識は、個々の議員によって目標(ゴール設定)が違う。 ・議員のレベルと議員の意識はバラバラであり、能力向上の取り組みに関して、議会や議会事務局の一部にとどまっており、能力向上の意識はあるが、まだまだである。 ・理想の形はあるが皆で共有されていない。大項目が組織的基盤であることを踏まえると、選挙を意識した個人的行動と、チーム議会としての団体行動の議論を深める必要がある。 ・会派に関して、役選ベースからスタートしていることを考えれば、会派の理念をどこまで共有できているのか不明確であり、もう一度会派の在り方について考えるべし。 ・議会事務局なくしてはできないと言うくらい、議会事務局との連携はできている。しかし、あまりにも議会事務局をあてにしすぎている。 ・そもそも、議員はいろんな価値観やタイプの議員がいて当たり前。それぞれの得意なところを持ち出し、議論を深めることが市民のためになるのではないか。 ・また、能力向上とは、能力にばらつきがあったりすることは前提で、議会は色々な議員がいていいし、一つの物差しで能力を図るものでないし、それぞれの議員の持ち味を活かし、さらに向上できるよう、様々な意見を自由に言い合い、チーム議会としての良さを発揮することが市民への利益になる。 ・「持ち味を出す」とは具体的にどういう事かという議論に発展。 <ul style="list-style-type: none"> →委員会では、それぞれの得意分野での持ち味を出して、より議論を深める。 →委員会などで、発言の偏りをどう思うかと言う意見に関しても、なるべく議員の得意なところを発揮してより議論を深めることが大事であり、偏りなく、みんなの意見を出し合うことも必要だと議論した。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議員に求められる能力(データ分析、対話する力、条例・予算を読解する力など)が明確でなく、分析できていない。 ・能力向上の必要性を認識しているが、その取組は議会や議会事務局の一部にとどまり、また、計画的なものではない。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・能力向上に向けて現状把握を行い、必要な研修を企画する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点3. 条件整備	⑨体制づくり と活動基盤整備	◎	過去の事例やしがらみに捕らわれず、理想的な姿の実現に向けて望ましい体制や活動のあり方が模索されている。
		○	先進事例等も踏まえ、課題に応じたより良い体制や活動に取り組んでいる。
		△	課題に応じた体制づくりや活動整備を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【A グループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・視察先をしっかりと考えるようになった。 ・各委員会のみで共有しているところもある。 ・<u>視察後の協議の場がない。</u> ・議会事務局と一緒に進んでいくようになった。(もっと議会事務局に相談できたら…)

【B グループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・進めていて整ってきている。方向性は見えてきている。 ・望ましい議会運営まではまだ ・会派のみでとどまっているのがもったいない。全体で共有したい。 ・議会全体で共有がもう少し必要。 ・<u>体制は整ってきている。議会全体としての認識の一致を図っていく。</u>

【C グループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・先進事例を踏まえ、課題に応じてはいるが、チーム議会として一つにまとまっているとは思えない。 ・今回のように、検証評価をみんなでやるなどの取り組みはとても良い。議会改革に関して議会運営委員会で先進地へ視察し、全協などでの報告が無くそこでとまっている。できれば議会改革に関しては全員でやっていく方が新人議員も議会の仕組みがよくわかると思う。議会全体で行うことがとても大事である。 ・条例や規則は見直していてもいいのではないか ・調査研究などにより、先進事例を取り込みながら活動基盤の整備を行っているとは思えない。 ・一般質問の時間など会話に重きを置いているため、1つの会派が仕切ることができ、多様性の反映にはなっていない。 ・議会運営委員会委員の選び方に偏りがあり、先進的ではない。会派そのものももう一度考えるべきではないか。議会運営を決めるのは議運であることから、2つの会派で決めているため、1つの会派で仕切ることも可能であり、多様性が認められない。 ・将来のある一定の目標に向かって変えていく必要がある。 ・議運のあり方を考えた場合、選び方に偏りがあり、1会派ですべての席を埋めることができるため、議運の選任の仕方を考えるべし。また会派の合議体として政策運営をきちんと行っているのか不明であるとともに、今後は会派のあり方を踏まえ議運の選任の仕方も再考すべし、(例えば鳥羽市議会を参考にしして)

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究によって先進議会の事例等を参考にしながら、議会の「理想的な姿」の実現を目指して運営や体制の見直し、整備などが進められている。 ・結果として、より良い議会の体制や活動基盤の整備を目指した体制面、運営面での改革や改善、議会事務局の資質向上が一部で生まれており、取組が続けられている。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・議会として「広聴・広報機能の充実」を図ることは共通認識されているが、担う委員会を整備する必要がある。 ・全員懇談会を定例的に開催するなどして、情報共有を図る体制を整備する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点3. 条件整備	◎内部資源と外部連携の活用	◎	議会内の人的資源、情報インフラや、外部との連携の枠組みを積極的に活用し、得られた知見も議会活動の様々な場面で活用されている。
		○	議会内の人的資源、情報インフラや、外部との連携の枠組みの整備に取り組んでいるが、得られた知見の活用は一部にとどまっている。
		△	内部資源の活用のあり方や、外部の大学や議会等との連携のあり方、知見の活用の方法を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【A グループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化はやっている。 ・大学や先進議会との交流がまだまだできていない。 ・議会図書室を利用していない。

【B グループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・データの活用が重要だとの認識はできてきている。 ・タブレットで様々な情報を収集できるようになった。 ・議会図書室を使っていない。 ・具体的かつ十分な活用はまだ。 ・タブレットの活用がまだまだ ・外部連携が整備されていない。 ・<u>タブレット(SideBooks)を有効活用するため、どこに何が入っているか「サイトマップ」があるといい。</u> ・<u>タブレットの使い方がわかるマニュアルが必要。</u>

【C グループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの意識はあるが、枠組みだけである。まだまだ少しで理想まで届いていない。 ・アーカイブの使い方やアプローチができていない。 ・議会検証評価特別委員会で2年連続「市民モニター制度」とあるが実質的に動いていない。第三者機関を設けて議会を評価してもらうことも必要ではないか。 ・「検索機能」や「通信機能」がまだまだ不十分で、どこかの企業でもICTの部署があるくらいなので、「ICTの専門チーム」を作り、外部からプロを呼んで、もっと便利に使えるような環境が必要だと考える。中途半端では、手間が増えるだけで不便である。 ・執行部も紙ベースでの説明ではなくタブレットを用いた説明でないと議員と執行部とのリズムが合わない ・ICTのハードとしての飾りはあるが、ソフトを使いきれしていない。またICT化の必要性は感じるが、具体的な取り組みに至っていない。 ・内部資源でいえば、部長を呼んで勉強会を開催するなど、まさに始まったばかり。しっかりと内部資源があるのに活用しきれしていない。これを機会に意識化をしていきたい。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTにいち早く取組み、ペーパーレス、事務の効率化は進んだ。 ・外部資源として、議会機能強化のために、大学教授や(公財)日本生産性本部などの専門的知見の活用はできているが、外部連携の活用ができていない。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を導入して5年が経過する。さらなる活用に向け、協議する必要がある。 ・オンライン審議の体制を整える必要がある。 ・外部連携について、必要に応じ対応できるよう協議しておく必要がある。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点4. 信頼と責任	⑪法令等遵守	◎	社会の要請に応じた政治倫理や議員に求められる責任が条例等で明示され、個々の議員や会派の活動に徹底され、不断に改善実施されている。
		○	議会として法令等の遵守に取り組、社会の要請に応えるため、個別の取組が行われている。
		△	各議員の責任で法令等の遵守に取り組んでおり、議会としての対応のあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例、政治倫理規程を定めているが、十分に理解するための仕組みづくりはまだない。 ・条例、規程等を定めているが、住民との間に信頼関係がない。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組、行動に至っていない。 ・<u>認識の差があり、統一されていない。</u> ・十分に浸透していない。 ・<u>コンプライアンス研修の機会を持つ。</u>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例に明文化されているが、住民と議会の間信頼が構築されているようには思えない。まだまだ住民不信がある。 ・申し送り事項により、必要以上に住民に不信を抱かれないようにしている。 ・政治倫理審査会に関しては一度開かれている。政治倫理に関しては、もう少し細かく規定した方が良いのではないか。 ・全国市議会議長会での「今後の地方議会・議員のあり方に関する決議」でも記されているように、議員の役割を明文化した方が良い。なぜならば特定団体の要望に関して議員が過度に窓口で要望や説明することがあったため、事務局でアポを取ってからでないと行政にいけない。議員としての立場は、自分たちが思う以上に明記されていないところにも気を使わなければいけない。 ・議員一人では、市政を把握できていないため、職員に専門的なことは聞かなければならないこともあり、市の現状も行政に直接聞かないといけなときもある、行政をシンクタンクとして利用しなければ議員の役割を果たせないにも関わらず、自ら制限をかけているようなところもあり、由々しき事態と考える。議員としての立場をしっかりと踏まえつつ、自由な活動ができることを望む。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例及び政治倫理規程で議員の役割、求められる責任は明記しており努めているが、個々の議員に認識の差があり、議会全体として詰められていない。 ・市民との信頼関係を得られるような議論が足りない。 ・議員個々と市民の信頼関係に留まっている。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例に規定する「議会の活動原則」及び「議員の活動原則」を議会として再認識し、市民に信頼を得られる議会になるよう努める。そのためには、市民の声を的確に議会活動に反映させられるよう、議会の体制を整える必要がある。 ・コンプライアンス研修の機会を設ける。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点4. 信頼と責任	⑫情報公開と説明責任	◎	説明責任を果たすための広聴広報、情報公開が実現しているとともに、媒体等も進化している。
		○	広聴広報、情報公開に取り組んでいるが、住民との双方向性が不足し、説明責任を果たすにはまだ十分なものではない。
		△	説明責任の必要性を認識しており、望ましい説明責任を果たすための広聴広報、情報公開のあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・いなべ FM、録画配信、議会だよりなど数多く取り組んでいる。 ・信頼関係までつづけているかは疑問。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなツールを使ってできている。 ・<u>市民と信頼関係を築く取組が必要。</u> ・賛成、反対の討論をきちんとすべし。 ・自分たちの判断に責任を持つ。

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報公開」に関してはとても充実してきた。録画、中継、SNS、会派新聞、FMなどのツールがあり、一気に進んだ感はある。 ・「説明責任」についても討論まで中継や録画を通して市民に知ってもらう機会もあり、十分に責任を果たしている。 ・これらの取り組みを、もっと市民にお知らせがあっても良いのではないか。 ・市民との対話ができているため、市民からの不信感が拭えない。対話型の説明責任は議会報告会をもう少し増やしていったり、委員会における参考人招致などもどんどん増やしていく必要がある。 ・傍聴に来るだけでイメージが変わったとの市民の意見もあり、直接的に働きかける機会も必要。 ・対話型の報告会の必要性を感じる。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会から情報発信する体制は整ってきた。 ・議案審議の体系(議案の把握、論点整理、市民意見の把握、討議、態度の表明)が、市民へ説明するに足るものになっていない部分がある。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・説明責任を果たすため、議案審議を体系立てて構築する。 ・議会報告会を充実させ、市民と議会の信頼関係の構築に努める。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点4. 信頼と責任	⑬危機管理	◎	業務継続計画等により非常時の対応が明確化され、訓練も安定的に実施されている。非常時のオンライン活用に必要な制度面等の整備も行われている。
		○	非常時の基本的な対応については、議会内で確認され、個別に実施されている。
		△	危機管理の重要性を認識しているが、具体的な対策は各議員の判断にまかせている。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の整備は進んでいる。 ・避難訓練も定期的に行っている。 ・具体的な安否確認の方法など、最終までは詰められていない。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会が機能を維持するためのしゅきが未熟。 ・BCPに沿ったシミュレーションが必要。 ・緊張感をもって訓練が必要。 ・段階を通じた議会の動きが明確でない。(議会と執行部との関係、夜間など)

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画(BCP)を策定したことが評価できる。 ・オンラインでの本会議を国(総務大臣)も認めたこと、市議会議長会からもオンラインでの本会議を開催できるようにしなければならないという提言が出ていることから、事業継続計画を発表した時点で、このことも踏まえるべきだった。 ・シミュレーションがされていないことや復旧から復興までの議会の仕組みがまだできていない。 ・議会の防災訓練も少し緩く思えた。 ・非常時など議員が個別で動くと言われているが、その後の報告が議員に入っていないため、復旧から復興までの議会としての仕組みが必要であり、申し送り事項も見直す必要がある。 ・議員は非常事態でも一線をひいているため、先日の断水の経過や笠間保育園の仮園舎での再開も新聞で知った。 ・行政と議会の情報共有として報告等が必要と感じる。議員を市民の代表と認識されていないと感じる面がある。大規模災害なら議会への報告が遅くなることも理解できるが笠間保育園の仮園舎での再開くらいはせめて議会への報告としてあってもいいと感じる。 ・復旧から復興までを踏まえた議会としての仕組みが必要。 ・もう少し執行部からの説明が欲しい!

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会 BCP を令和4年4月に策定。 ・毎年、防災強化月間に合わせ、9月定例会閉会後に危機管理を考える機会を持っている。 ・防災頭巾を議場に整備している。 ・議会 BCP が機能できるか検証できていない。 ・行政と議会の情報共有として報告等が必要と感じる。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・議会 BCP について、学ぶ場(確認する場)を設ける。 ・議会 BCP が機能するか検証する。 ・危機管理に関して執行部と議会の情報共有を強化する。 ・オンライン審議の体制を整える必要がある。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点4. 信頼と責任	⑭主権者教育 と選挙の充実	◎	議会の存在意義と活動内容を知ってもらい、主権者の役割、投票行動の動機付け等、主権者教育を継続的・積極的に行い、投票率向上等の成果が見られる。
		○	主権者教育の必要性を理解し、議会としての取組を始めたが、継続的なものにはなっていない。
		△	主権者教育の必要性を認識しているが、議会として取り組み方や、そのあり方を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会に興味を持ってもらうための取組は進めている。 ・投票率向上に向けての取組は十分ではない。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・実績はいくつかできた。 ・親子議会体験ツアーは効果があった。その先を考える必要がある。 ・市民の議会に対する理解がまだまだ。 ↑の認識はあるが、具体的な計画、行動ができていない。

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正巳

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・投票率が落ちてきていると言う事実がある。 ・先日の親子議会などこれこそが主権者教育だと思う。このようなことを始めたところで、まだまだ不足していると感じる。 ・四日市市議会、三重県議会議員など、出前講座や模擬投票などの取り組みを真似し、小さなことも積み重ねて継続をするべしと言う意見交換で評価を三角としました。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育の醸成や「二元代表制」としての議会の役割を住民に理解してもらうことの重要性、必要性は、議会として共通認識は持っている。 ・令和5年3月に実施した親子議会体験ツアーによって、議会全体で成果を感じることができた。 ・選挙公営の拡充が図られた。 ・結果として、住民の議会に対する理解が少しずつ進むようになってきているが、まだ散発的な取り組みになっている。選挙への動機付けや投票率向上に向けての取り組みは、まだこれからである。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育に積極的に努める。 ・児童生徒に対し議会を体験してもらう機会を積極的かつ定期的につくる。 ・選挙管理委員会にも働きかけ、選挙・投票への動機付けや関心を持ってもらうように取り組む。(先進自治体の取組を学ぶ) ・議員の成り手を増やすため、議会の環境(出産・育児、看護・介護に対するフォロー)を考えていく。 ・多世代の政治参画を促すため、カフェなどを開設する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点5. ふり返りと 学び	⑮ふり返りの 取り組み方	◎	議会全体で定期的に議会活動のふり返りを行い、住民などの外部に結果を公表し、意見を求めている。
		○	委員会、会派などの個別の活動では、ふり返りが行われている。一部ではふり返りが習慣化している。
		△	評価や検証など、ふり返りの必要性は感じているが、実際の活動ではふり返りを行うことが習慣になっていない。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> 代表者会で断定的なことしか行っていない。 定例会終了後にふり返る時間がない。 一般質問については良くなるように、1人の質問を元に、ふり返りの時間がある。→議会の質が上がる。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> 個々に取り組んでいる。／せんどやっている。 具体的な方法、検討が進んでいない。 ふり返りの意味が十分に理解されていない。 具体的な取組が全体で共有できていない。 <u>議会全般で考えるとふり返りができていない部分がある。</u> <u>一般質問、議案審議の方法など、ふり返りができていないところの洗い出しを行い、しくみをつくる必要がある。</u>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正己

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> 検証評価として行政に提出？しているものの定例会終了後に議会として振り返ってしっかりと議論はされていないと感じる。 会派代表者会議で振り返りはしているものの、将来的には各議員の一般質問の内容などを振り返り、定期的に議会活動の振り返りも必要。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> いなべ市議会では、定例会閉会後の会派代表者会を「ふり返りの場」としているが、いくつか課題がある。 (会議で出た意見が共有されていない／細かく振り返る機会となっていない／無会派議員は参画できない など) 議会活動のふり返りとして、毎年1回、自己評価を実施し、検証している。 議案審議、議決内容の検証などを行う総括の場、しくみが無い。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> 議会の「ふり返り」を政策サイクルの中に反映させられるよう、しくみをつくって運用する。 一般質問で上がったテーマ(課題・問題)を、より効果を発揮させるため、議会(委員会)として検証する。

(凡例) ◎:継続的に成果を生んでいる ○:取り組んでいる △:模索している ー:いずれにもあてはまらない

視点	項目	評価のめやす	
視点5. ふり返りと 学び	⑩ふり返りの 結果の活用	◎	任期や委員会の枠を超えて、議会改革に向けた課題を議会として引き継ぐ仕組みがあり、実際に実行されている。
		○	ふり返りを通じて得た課題は一部の議員間で共有され、改善の動きが見られるが、議会としてどのように取り扱うかが明確ではない。
		△	ふり返りを通じて得た課題は全体で共有されることはなく、その活用方法を模索している。
		ー	いずれにもあてはまらない。

【Aグループ】◎西井真理子、○多湖 公、清水隆弘、岡 英昭、位田まさ子

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	ふり返りを行っていないから、いずれにもあてはまらない。

【Bグループ】◎岡 恒和、○伊藤三保、小寺徹翁、原田敬司、林 正男

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りの活用ができていない。 ・会議で発言したことに助言がほしい。(ふり返りの機会がほしい) ・議会改革の継続的な取組やバージョンアップにつながっていない。/任期をまたいで継続できるか。 ・場合によって、「ふり返ることが必要なか」も含めて検討が必要。 ・<u>政策サイクルの中で「ふり返り」の位置づけと共通理解を図る。</u>

【Cグループ】◎伊藤智子、○渡辺一弘、篠原史紀、片山秀樹、衣笠民子、種村正巳

成熟度	合意された点、合意されなかった点等
△	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートで、自己の反省とともに委員会に提出するなど、また、議会検証評価は、期をまたいでもしっかりと受け継がれている。 ・定例会の振り返りをしておらず、振り返りの結果の活用は全くされていない。

【リーダー会議のまとめ】

成熟度	評価の理由・根拠
○	<ul style="list-style-type: none"> ・議会検証評価特別委員会を毎年設置し、議会活動の振り返りは実施している。 ・毎年実施していた検証評価での課題、改善の一部は、必ずしも全議員で認識されているものではなかった。 ・今回、成熟度評価モデルに取り組んだことで、全議員の意見を反映させることができた。 ・議案審査、議決内容を振り返るしくみはない。
	具体的な改善点等
	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の「振り返り」を政策サイクルの中に反映させられるよう、しくみをつくって運用する。 ・一般質問で上がったテーマ(課題・問題)を、より効果を発揮させるため、議会(委員会)として検証する。 ・上記2点が実行されることによってふり返りの活用が生まれる。

